

深谷市授業スタンダード

確かな学力を身に付ける授業づくり

【授業の流れ・指導のポイント・板書の例】

【小学校】

深谷の子「6つの誓い」	p1
深谷市授業スタンダード	p2
国語授業ベーシック	p3～4
社会授業ベーシック	p5～6
算数授業ベーシック	p7～8
理科授業ベーシック	p9～10
外国語・外国語活動ベーシック	p11～12
深谷市スタイル	p13～24





深谷の子「6つの誓い」

しづさわ えいいち おう ところ つか ぶかや きょういく
 ~渋沢栄一翁の心を受け継ぐ深谷教育

ゆめ ちよこころざしをもち、まごころと思いやりのある深谷の子



りっしん せいしん ゆめ
 立志の精神(夢とこころざし)



ちゆうじよ ところ おも
 忠恕の心(まごころと思いやり)



わたし 私は、
 む 夢
 どりよく
 に向かって努力します。



わたし 私は、
 まいにち べんきよう
 毎日勉強
 します。



わたし 私は、たくさん挑戦、
 たいけん
 体験
 します。

夢は、人生を豊かに
 します。
 目標を立て、日々努
 力し、「こころざし」
 としてかかげていきま
 しょう。

真剣に授業にのぞみ
 学び合うなかで、学力
 は定着します。
 家庭でも計画を立て
 て、毎日学習をしまし
 よう。

実際に身をもって学
 ぶことで、新しい発見
 ができます。
 今までやっていなか
 ったことにも挑戦し、
 体験を広げていきま
 しょう。



わたし 私は、
 すずんで
 あいさつ
 をします。

あいさつは、社会生
 活の基本です。
 「おはよう」「いってきます」
 だれにでも、気持ち
 をこめて、笑顔で元氣
 にあいさつをしまし
 ょう。



わたし 私は、脱いだ
 くつを
 そろえ
 ます。

くつそろえは、気持
 ちを整えることにつな
 がります。
 いつでもどこでも、
 自分のくつはもろろん
 周りのくつも、そつと
 そろえてみましょう。



わたし 私は、
 心のこもった
 ことば
 をつかいます。

「ありがとう」「どういたしまして」
 「ごめんなさい」「大丈夫です」
 支え合い、助け合い、
 人への思いやりは、温
 かい言葉となって表れ
 ます。ことばを大切に
 しましょう。

深谷市 授業スタンダード

導入

1 授業の目標（ねらい）を提示する！

- 本時の目標を明確に示しましょう。
- 具体物を用意したり、ICT機器を使ったりするなど子どもが課題をとらえやすくするとともに、意欲がわく課題の提示を工夫しましょう。
- 授業の流れを見通す活動を取り入れましょう。

展開

2 自分で考える活動を確保する！

- 活動時間を十分に確保しましょう。
- 既習内容を活用したり、教材（本文、資料など）を根拠にしたりして、自分の考えを表現させましょう。
- 教師が、指示やヒントを何度も出すことはひかえましょう。

3 仲間と学びあう活動を取り入れる！

- 友達の考えを共感的に受け止める学習集団を育みましょう。
- 自分の考えを他の人にわかりやすく伝えることを意識させましょう。
- 本時の目標を達成するために必要な考えや意見を取り上げましょう。
- 発表して終わりではなく、子どもたちが考えを比較検討したり、考えを高めあうような話し合いができるように工夫しましょう。（※参照）

まとめ

4 学んだことを実感させる！

- 本時の目標にてらして、授業のふりかえりをしましょう。
- 子どもたちが、授業で「わかったこと」「できるようになったこと」を実感できるようにしましょう。

【小学校 国語ベーシック】 4年「ごんぎつね」・（読むこと）



【本時で身に付けるべき言葉の力は何か】

学習指導要領から

第3学年及び第4学年、「読むこと」の指導事項Ⅰ、「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり」と結びつけて具体的に想像すること。」

この言葉の力を身に付けるために、本時でどのような学習活動を行い、その際にどのような学習内容をおさえるべきなのかを、明確にすることが重要である。

【授業の流れ】

前時までの学習をふりかえる

本時の学習課題をつかむ

見通しをもつ

本時の学習場面を読む

各自で読み深める

グループ内で発表

まとめ

ふりかえり

指導のポイント

○前時までの学習を想起させる。

○課題は、本時のまとめと正対するように設定する。課題を声に出させて読ませることで意識を高める。

○どのような学習活動を行い、課題を解決していくのかが分かるように、具体的な学習活動を示す。

○学習場面を理解することが目的であるため、教師による範読や、読むことが上手な児童を指名するのがよい。

3
点
セ
ット

※ここがポイント

・押さえる表現
・押さえ方
・答え

○考えを共有し、友達の考えを参考に、自分の考えを高める。

○板書や児童の発言等を生かしながら、課題についてまとめる。まとめの音読を入れるなどしてもよい。

○本時の学習課題に正対した振り返りを行う。

単元全体を見通し、本時の学習がどの学習段階なのかを確認するとよい。

国語における系統的な指導を行う際に大切なことは、この身に付けるべき言葉の力が何なのかを、学習指導要領に立ち返り、常に意識して授業を行うことである。

- ① 音読をする
- ② 「ごん」と「兵十」の気持ちが分かる言葉にサイドラインを引く
- ③ サイドラインを引いた言葉から分かる気持ちをノートに書く
- ④ グループで発表し、考えを交流する
- ⑤ まとめ

※このように具体的に伝えるとともに、黒板に掲示しておくとうよい。

※「押さえ方」は、「ごん」と「兵十」の気持ちが分かる言葉にサイドラインを引く

ごん

「ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。」
(押さえる表現)

→ああ、よかった。やっと兵十に分かってもらえた。
(答え)

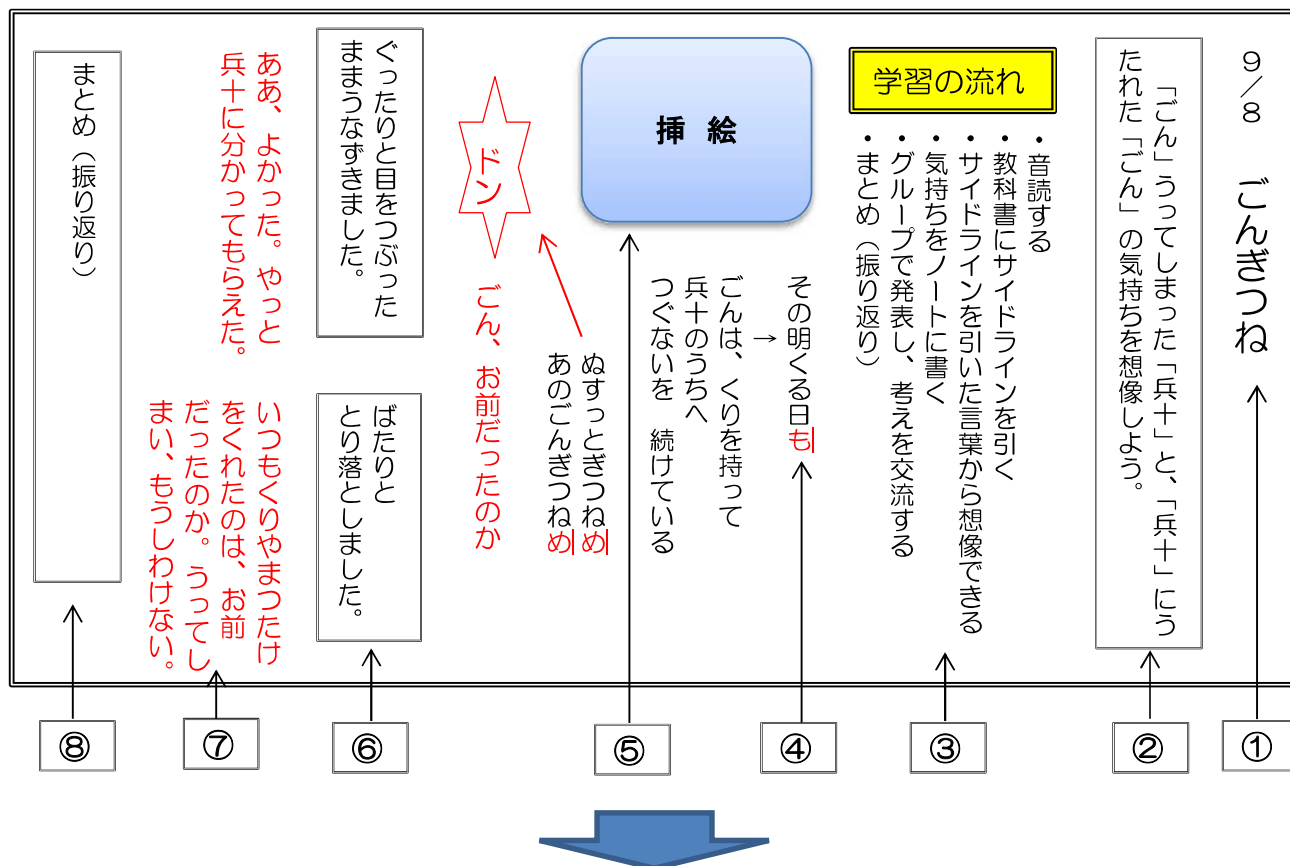
兵十

「火なわじゅうをばたりと、とり落としました。」
(押さえる表現)

→いつもくりやまつたけをくれたのは、おまえだったのか。うってしまいもうしわけない。
(答え)

【小学校 国語ベーシック】 4年「ごんぎつね」・（読むこと）

【板書の例】



【よい板書にするためのポイント】

- ① 日付をいれる。教材名を書く。
- ② 本時の学習課題を明記する。四角囲みする場合には、定規を使って線を引く。
- ③ 本時における学習の見通しをもたせる。
- ④ 着目させたい言葉にサイドラインを引いたり色を変えたりする。
- ⑤ 教科書の挿絵を参考に象徴的な場面の絵を掲示する。
- ⑥ 「押さえる表現」を明記する。四角囲みをするなど工夫する。
- ⑦ 「答え」（想像したことや分かったこと）を明記する。赤字で書くなど工夫する。
- ⑧ まとめでは、板書や児童の発言等を生かし、本時の学習課題に照らしてまとめる。まとめと振り返りが一緒になることもある。また、最後に、本時の学習場面を音読して授業を終えることも考えられる。

板書は授業そのものを表す！

よい板書は、授業が終わった後に見ると、45分間の指導過程が分かり、授業の様子や児童の声が聞こえてくる。「学習課題」と「まとめ（振り返り）」が正対して書かれ、どのような方法で課題を解決したのかが見えてこなければならない。

授業前に板書計画を立て、綿密な教材研究をすることが大切である。



【小学校 社会ベーシック】中学年「はたらく人とわたしたちの暮らし」

【本時の課題に対するまとめになっているか。】

本時の課題

課題に対するまとめ 【児童のまとめの例】

つかむ

スーパーマーケットに買い物に行きりゆうについて話し合い、学習問題をつくりましょう。

わたしたちの深谷 一小学校社会科副読本一

P48 「スーパーマーケットに行くわけ」

本時は、多くの人がスーパーマーケットに行く理由を考え、そこから、「たくさんのお客さんが訪れるために店側がどのようになくふうをしているのか」についての疑問や調べたいことを学習問題として設定する学習である。

買い物に行きりゆう

- 多くのしゅるいの品物がある。
- おそうざいがたくさん売られている。
- 品物がやすい。 • ちゅう車場が広い 等

学習問題

スーパーマーケットではたらく人たちは、たくさんのお客さんに買い物をしてもらうために、どのようになくふうをしているのでしょうか。

【授業の流れ】

【指導のポイント】

導入

資料の提示

【資料の精選】

売り場の写真を提示したり、店全体の写真を提示したりして、スーパーマーケットの売り場や店全体の様子をとらえられるようにする。

※必要に応じて、タブレット等のICT機器で資料提示する。

展開

課題の把握

考える

話し合う

発表し合う

学習問題を 設定する

考える

- スーパーマーケットに行く理由について売り場の写真や店全体の様子を表した資料から予想させる。

話し合う

- 店に行く理由について、班などの少人数グループで自分の考えを話し合わせる。

発表し合う

- 自分たちのグループの考えを発表させる。

学習問題を設定する

- 子供たちの疑問や予想などの考えを共有した上で、単元全体をとおして解決していく課題（学習問題）をつくる。

※「学習問題」とはその単元を貫く大きな課題のことです。

まとめ

予想する 調べる計画を 立てる

予想する

学習問題について、その「答え」を予想させ、スーパーマーケットを見学する際の視点につなげる。

調べる計画を立てる

- 学習問題の答えを導き出すために、何をどのように調べればよいのか、計画を立てる。

【小学校 社会ベーシック】 3年 「店ではたらく人」

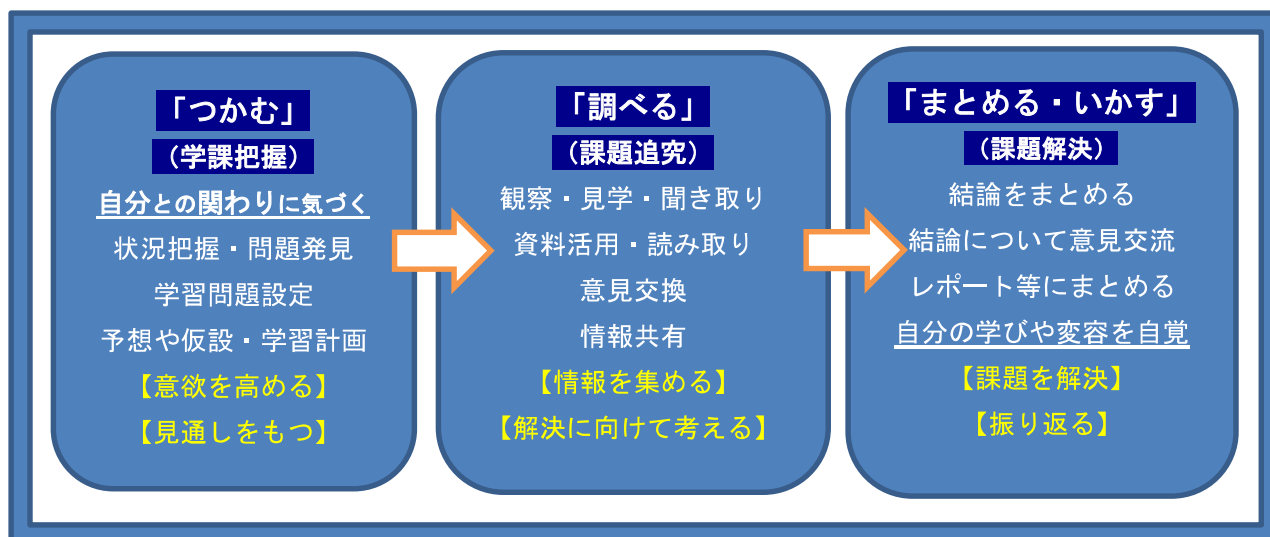
【板書の例】

「スーパーマーケット の魚売り場」の写真	さんま お買い得品 ほかにも商品がある パックづめ	「スーパーマーケットの 全体の様子」の挿絵	商品ごと たくさんの品物 広い できたて・しんせん
課 題 スーパーマーケットに買い物に行く理由について話し合い、学習問題をつくりましょう。			
1 はんの考え 「安い商品が売 っているから」	2 はんの考え 「一度にたくさ ん買えるから」	3 はんの考え 「たくさんの品 物があるから」	4 はんの考え 「きれいになら んでいるから」
		5 はんの考え 「広いちゅう車 場があるから」	
学習問題 スーパーマーケットではたらく人たちは、たくさんのお客さんに買い物をしてもらうために、 どのようにくふうをしているのだろう。			
予 想 その日に仕入れている？ 商品のチェックをしている？ お店で切っている？・作っている？ 大量に仕入れている？ 買い物をしやすくなっている？ チラシでせんでんしている？			

社会の授業づくりのポイント

- 単元全体の学習の流れは、【つかむ→調べる→まとめる・いかす】
- 1時間の授業の主な流れは、【課題→予想→調査→結果発表・意見交換→まとめ→振り返り】
- 前時の振り返りと学習計画から本時の課題を立て、1時間の授業の見通しをもたせる。
- 本時の課題の答えを予想させる。
- 調査活動では、何をどのように調べるのかを明らかにする。
- 調査結果を発表し合う活動では、写真やグラフなどの資料を効果的に活用しながら、意見交換する。
- まとめでは、調べてわかったことをもとにして、課題に沿った理由を入れて考える。
- 必要に応じて、本時のふりかえり（自分の学び方や結果、新たな疑問、今後の見通し等）を書かせる。

単元全体の学習の流れ（学習過程）



【小学校 算数ベーシック】 5年 「平行四辺形の面積」



【授業の流れ】

【指導のポイント】

問題の提示

- 課題解決に必要な**既習事項を確認**する。
- 図などを用いてわかりやすく提示する。
- 課題解決に必要な事柄や数値を明らかにする。
- 問題把握から**既習との違いを明確**にする。

【発問例】

「今までと似ているところはどこですか？」
「今までとどこが違いますか？」

課題の設定

- 課題は、**本時のまとめと正対するように設定**する。
- 課題は、必ず板書し、児童のノートにも記述させる。

【課題例】

「方法を問う課題」
「～をする方法を考えよう」
「理由を問う課題」
「どうして～になるのか考えよう。」

見通しをもつ

- 自力解決に必要な見通しを**児童とともに導き出す**。
- 児童を中心に**豊かな意見交流をする

【例】

- ①結果の見通し
- ②方法・考え方の見通し
- ③表現の見通し

自力解決

- 式と答えだけでなく、**図や言葉を使って考え方を表現**させる。
- 1つ目の方法で解決できたら、よりよく解決できる2つ目の方法を考えさせる。
- 必要以上に時間を延ばさない。

考え方が複雑にならないようにする。

多様な考え方がでなければ、教師が示し、読み取る場を設定する。

発表

- 図と式、言葉を**関連づけて**発表できるようにする。
- 児童の発表の中で、**キーワードは板書**し、児童のまとめに活用する。

発表内容が不明確な場合は、矢印や記号を用いて、わかりやすく表現させる。

「なぜ?」「どうして?」「本当に言える?」等、児童の思考をゆさぶるような切り返しの発問を行う。

練り上げ

- 各考え方の共通点から、本時の課題を解決するための考え方を**児童の言葉でまとめていく**。
- 課題解決に関わる内容は、「どうしてそう考えたの?」と発問し、**学習内容の共有化**を図る。

【発問例】

「いつでもできるかな? (条件変更)」
「もっと簡単にできないかな? (簡略化)」
意図的な発問で、まとめの定着化!

まとめ

- 課題とまとめの**整合性**を図る。
- まとめは必ず板書**し、児童のノートにも記述させる。

【まとめ方の例】

・「穴埋め式」→「キーワードの提示」
→「リード文の提示」
児童の実態に応じて、自力でまとめができるように計画的に指導していく。

評価問題

- 学習内容を理解できているかをしっかりと評価する。
- 理解が不十分な場合は、次時の学習で再度確認し、定着を図る。

【指導と評価の一体化】

話し合いの後に適用問題で解決できていたら、「概ね満足できる状況」へ

ふりかえり

- 計画的に学習感想を書かせ、学習したことのよさを実感できるようにする。

【小学校 算数ベーシック】 5年 「平行四辺形の面積」

【授業をゴールから考える】 授業の骨組みをしっかりと！

授業後の児童の姿

平行四辺形の面積は、既習の図形に帰着すると計算で求めることを説明することができる。

本時のまとめ

平行四辺形の面積は、長方形に形を変えると計算で求めることができる。

本時の課題

平行四辺形の面積の求め方を考え、説明しよう。

【学習活動を組み立てる】

授業のねらいの達成のため、評価規準や児童の実態に応じて
「導入」「展開」「まとめ」のバランスを重視する。

【例1】

課題を明らかにすることに時間をかける場合

問題提示・課題設定

自力解決・発表
練り上げ

まとめ

評価・練習問題

【例2】

自力解決やその後の学び合いに時間をかける場合

問題提示・課題設定

自力解決・発表
練り上げ

まとめ

評価・練習問題

【例3】

学んだことの定着・深化に時間をかける場合

問題提示・課題設定

自力解決・発表
練り上げ

まとめ

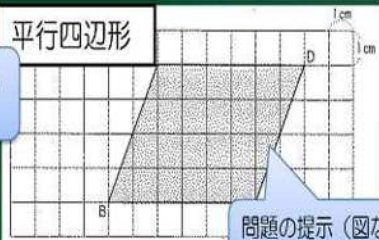
評価・練習問題

【板書の例】

問題

四角形ABCDの面積は何cm²ですか

学習の流れを示す。



問題の提示（図などを用いてわかりやすく）

【平行四辺形の特徴】

- ・向かい合った2組の辺が平行
- ・向かい合った2組の辺の長さが等しい

【面積の意味】

- ・1cm²のいくつ分

【面積の公式】

- ・縦×横＝長方形の面積

既習事項の確認
(必要に応じて)

課題は必ず
板書する。

課題

平行四辺形の面積の求め方を考え、説明しよう。

見通し

○考え方：長方形に形を変える。
○表し方：図 → 式 → 言葉

まとめ

平行四辺形の面積は、長方形に形を変えると計算で求めることができる。

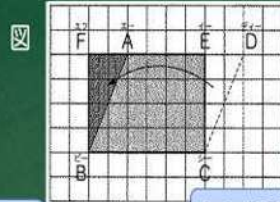
たくさん交流する

まとめは、必ず板書し、児童のノートにも記述させる。

方法：【切って移動】

【切って移動】

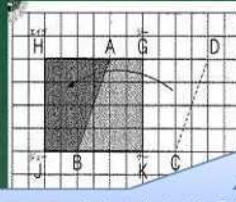
【切って移動】



$$\begin{array}{l} \text{式} \\ 6 \times 4 = 24 \\ \text{答え } 24 \text{ cm}^2 \end{array}$$

【平行四辺形→長方形】

キーワードは
板書する。

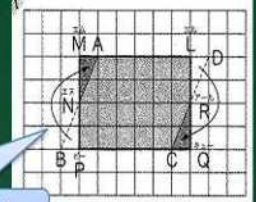


$$\begin{array}{l} 6 \times 4 = 24 \\ \text{答え } 24 \text{ cm}^2 \end{array}$$

【平行四辺形→長方形】

どうして？

【長方形の面積の公式で求めている】



$$\begin{array}{l} 6 \times 4 = 24 \\ \text{答え } 24 \text{ cm}^2 \end{array}$$

【平行四辺形→長方形】

重要なことは、「どうして？」と発問し学習内容の共有化を図る。

【小学校 理科ベーシック】 5年「ふりこ」



【問題に整合したまとめになっているか。】

問題

ふりこの糸の長さを変えると、ふりこが1往復する時間はどのように変わるだろうか。

結論（まとめ）

ふりこの糸の長さが長くなるほど、ふりこが1往復する時間は長くなる。

【授業の流れ】

自然事象への働きかけ

問題の設定

予想

実験計画

観察・実験

結果

考察

結論（まとめ）

ふりかえり

【指導のポイント】

○前時までの学習を想起させる。
○実生活の事象などを想起させる。

○問題を明確にする。
疑問形にする。
「○○なのだろうか？」

○課題に対する自分の予想をもたせる。また、その理由も書かせる。

○実験計画を明確にすることで、どのような学習活動を行って問題を解決していくのか、見通しをもたせる。

○実験は目的を明確にすること、観察は視点を示すことが大切である。

○実験結果と予想を照らし合わせる。

○各班の結果を共有し、考察を深めさせる。

○児童の発言や板書等を生かしながら、結論をまとめる（一般化）。結論は、課題に対する答えになるようにする。

○自分自身の言葉でふりかえりを行う。

【導入の工夫】 始めの5分

問題をすぐに提示するのではなく、前時までの学習や実生活の事象などを想起させ、本時の問題を見いだす。

問題の答えが、本時の結論（まとめ）になる。問題を疑問形にすることで、児童の問題意識をより高められる。

【例】…は、どのように変わるのだろうか。（○）
…の変化を調べましょう。（×）

→授業を通して解決したいことがより明確になる。

学習活動の見通しをもたせるために、実験方法や観察の仕方などを表示する。

【例】・実験の方法等を書画カメラで提示する
・サンプルを提示する

実験…何を調べるために行うのか、目的を明確にする。（課題の検証）

◇条件として揃えるもの（条件制御）

【例】・同じ条件 … ふり幅、重さ

・変える条件 … 糸の長さ

◇データの信憑性を高める（複数回の実験）

観察…視点をもって調べる。

◆関係性や全体性を見いだす

【例】・昆虫の体のつくり ・地層のでき方

実験結果を共有し、考察を通して、問題に整合した結論（まとめ）に導く。

【例】・ふりこの糸の長さが長くなるほど、ふりこが1往復する時間は長くなる。

【小学校 理科ベーシック】 5年「ふりこ」 【板書の例】

問題

ふりこの糸の長さを変えると、
ふりが1往復する時間は
どのように変わるだろうか。

おもりの重さ



時間は変わらない



実験方法

30cmと60cmの長さで比較

変えること

同じにすること

ふりこの糸の長さ

おもりの重さ
ふりこのふりはば

予想

- ・ 絵や図、言葉で書かせる。
- ・ 理由も書く
- ・ 生活経験や既習内容をもとに考えさせる。

おもりが1往復する時間

= おもりが10往復する時間(秒) ÷ 10

結果

グラフ

グラフ

グラフ

グラフ

グラフ

グラフ

グラフ

グラフ

考察

※ふりこの糸の長さ、ふりが1往復する時間との関係を整理する。

まとめ

ふりこの糸の長さが長くなるほど、
ふりが1往復する時間は長くなる。

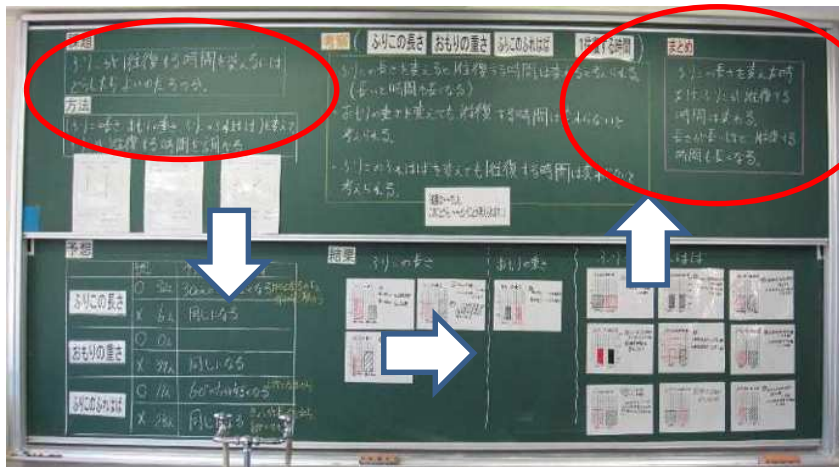
理科の板書において気をつけること

- 1時間の授業の見通しが立ち、児童に学習させたい内容が明確になっていること。
- 問題→予想→実験方法→結果→考察→まとめといった問題解決学習の流れを、児童が確認できること。
- 実験結果を表やグラフで表し、他のグループの実験結果と比べられるようにすること。

★結果の共有場面とICTの活用は非常に相性が良い

「クラウド保存・同時編集」や「まなびポケットやTeamsの指定のチャンネル(チーム)内での投稿」等を利用することで、実験結果をスムーズに共有し、考察する時間の確保につながる。

- 実験を行った際に使用した板書(ふりこ 4, 5, 6 時間目)



【参考例】

理科室では、上下可動式の黒板を使用する機会が多い。
そこで、左のように、黒板をU字型に使うと課題とまとめが横並びになり、本時の学習内容がより明確になる。
ただし、児童のノートの取り方に気をつける必要がある。

【目標・評価規準・振り返りが一貫しているか？】

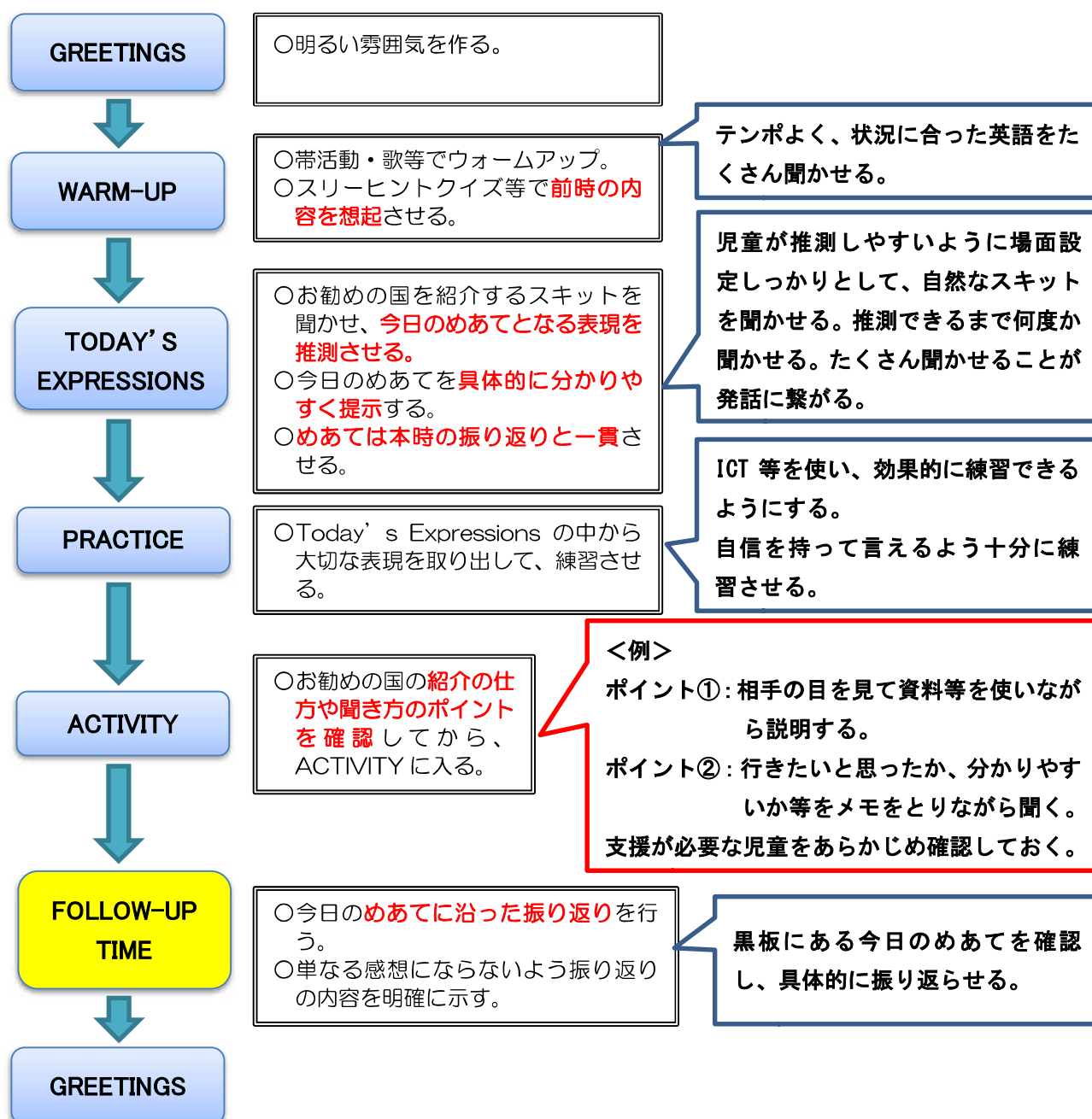


目標	評価規準	振り返り
自分の行ってみたい国を言ったり、友だちの行きたい国を聞いたりする。	- 自分の行きたい国を言ったり、友だちの行きたい国を聞いたりしている。 - 友だちに積極的に自分の行きたい国を言っている。 - 各国の名所やその国のよさに気づいている。	- 自分の行きたい国を言ったり、友だちの行きたい国を聞いたりしたか。 - 紹介された国について気づいたことがあるか。

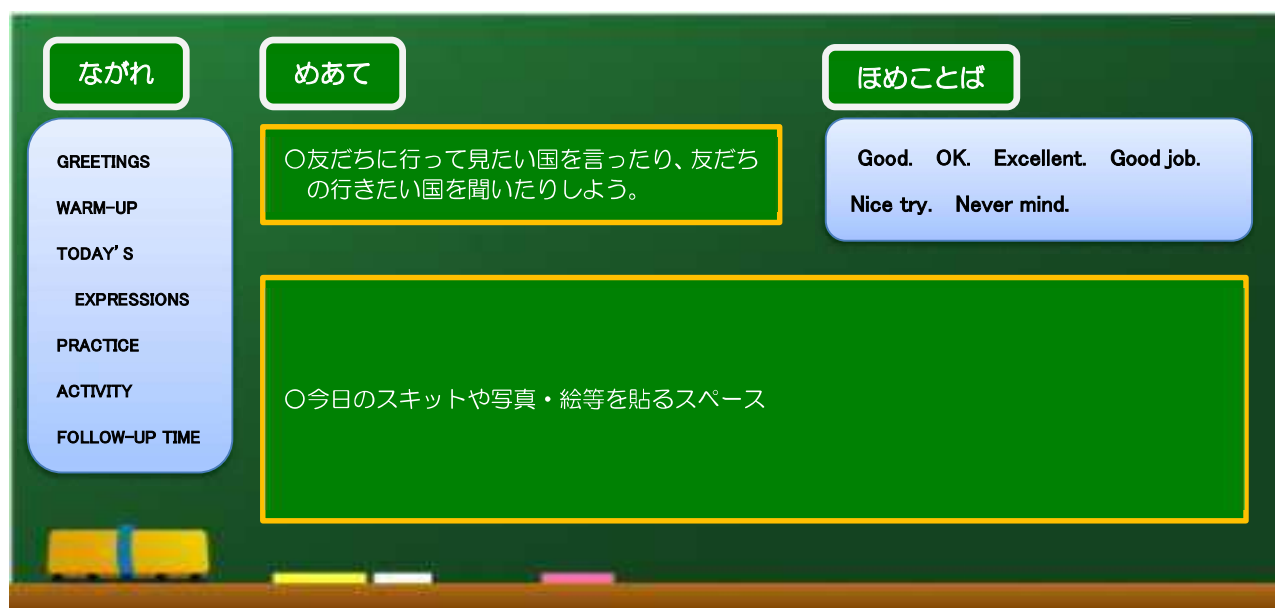
【授業の流れ】

【指導の流れ】

【指導のポイント】



【小学校 外国語・外国語活動ベーシック】 6年「行ってみたい国を紹介しよう」
【板書の例】



外国語・外国語活動のサイクルについて

○十分なINPUT→十分なPRACTICE→良質なOUTPUT(ポイントを絞った意味のある表現活動)を行うことで、児童に達成感を味わわせ、英語を話そうとする意欲につなげる。(下図参照)

